

製品名: TIEG2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18927**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	KLF11
別名	KLF11; FKLF; TIEG2; Krueppel-like factor 11; Transforming growth factor-beta-inducible early growth response protein 2; TGFβ-inducible early growth response protein 2; TIEG-2
遺伝子 ID	8462.0
SwissProt ID	O14901
免疫原	抗血清はヒト KLF11 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

背景

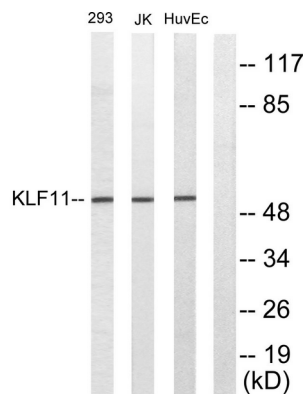
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、イプシロングロビン遺伝子およびガンマグロビン遺伝子プロモーター内の SP1 様配

列に結合するジンクフィンガー転写因子です。この結合は細胞増殖を阻害し、アポトーシスを引き起こします。この遺伝子の欠陥は、若年性成人型糖尿病 7 型 (MODY7) の原因です。この遺伝子には、2つの異なるアイソフォームをコードする 3つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2010年4月]、注意: PubMed: 11087666 配列は、もともとマウス由来と考えられていました。疾患: KLF11 の欠陥は、若年性成人型糖尿病 7 型 (MODY7) [MIM: 610508]の原因です。MODY [MIM: 606391]は常染色体優性遺伝で、25歳未満で発症し、インスリン分泌に主要な欠陥があります。MODY 家系は通常、浸透率 80~95%の多世代家系です。患者は非肥満体型で、糖尿病、インスリン抵抗性、高血圧、高トリグリセリド血症を特徴とするいわゆるメタボリックシンドロームは認められません。機能: 転写因子。イブシロングロビン遺伝子およびガンマグロビン遺伝子のプロモーターを活性化し、 β グロビン遺伝子もはるかに低い程度に活性化し、細胞増殖を阻害する SP1 様結合を含むプロモーターを抑制します。TGF- β シグナル伝達を促進する SMAD7 の転写を抑制します。アポトーシスを誘導します。誘導: TGF- β による。類似性: Sp1 C2H2 型ジンクフィンガータンパク質ファミリーに属する。類似性: 3つの C2H2 型ジンクフィンガーを含む。組織特異性: 普遍的。赤血球系細胞で高い発現を示す。

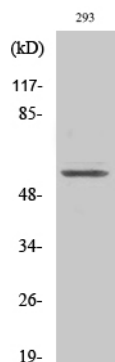
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達; 転写; ドメインファミリー; ジンクフィンガー; クルッペル様因子

画像データ



KLF11 抗体を用いた 293 細胞、Jurkat 細胞、HUVEC 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



TIEG2 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。